

来週の『売り物』記事はこれ

2015年7月10日

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

発掘された秘話

母を慕う特攻隊員の手紙

12日（日）



1945年4月、鹿児島県の知覧飛行場から飛び立った特攻隊員、安部正也少尉（当時21歳）は搭乗機の故障で離島に不時着しました。再出撃を望み、本土へ帰る船を出すよう島民に迫ります。島には手漕ぎの小舟が一艘。本土まで50^{キロ}の荒海を漕ぎ渡るのには不可能に近い。空にはグラマン、海には敵潜水艦が出没していました。島民が反対する中、一人の青年が「自分が舟を出す」と申し出ます。翌朝、2人は小舟に乗り込み、約30時間かけて奇跡的に本土へたどり着きました。帰還した安部少尉の勇気を上官は「特攻の中の特攻」と称えましたが、あの時、櫓を漕ぎ続けた安永克己さん（91）は「本当はやさしい人。戦争がそれを許さなかったのだ」としのびます。生死の狭間で揺れ動く特攻隊員の素顔に迫りました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

この国はどこへ行こうとしているのか

島田雅彦さん、赤坂真理さんに聞く

夕刊2面特集ワイド 14日（火）、15日（水）



衆議院では安全保障関連法案の審議が続いていますが、自民党の谷垣禎一幹事長が7日の記者会見で「審議時間も相当積み重なっているし、そろそろ出口を探る時期に来ている」と述べるなど、与党側が審議打ち切り・採決をにおわせる状況になっています。しかし、毎日新聞の世論調査では「説明不十分」との声が8割を超えています。そもそもこの法案の審議は尽くされたのでしょうか。強行採決に問題はないのでしょうか。作家の島田雅彦さん、赤坂真理さんにうかがいます。

「西原理恵子のおかん飯」 おんなのしんぶん ~~12~~ 12日（日）

料理家の枝元なほみさんとの「大好きさんへ編」。今回の料理は「手作り豆腐」です。この時期、さっぱりとした豆腐がおいしい季節ですね。豆乳とにがりで作って、小皿に盛った薬味を添えると、旅館の朝ご飯のような豪華さに。毎回、ウェブサイトにアップしている動画も必見です。今回は特に西原さんが張り切っています！写真特集と合わせて、お楽しみください。



金魚すくい名人になろう

くらしナビ面 17日（金）



夏祭りの定番といえば金魚すくい。ちょっとしたコツを覚えれば、格段に上達するそうです。ポイ（すくい網）を破らないようにする注意点、金魚の行動パターンの予測、持ち帰った金魚を長生きさせるための飼い方と環境作りなどについて、「全国金魚すくい選手権」で昨年3位に輝いた高田守さん（千葉県山武市）と、金魚問屋「吉田晴亮（せいすけ）商店」（東京都文京区）の吉田智子社長に教えてもらいました。

麻ひもでポーチ作り

くらしナビ面 14日 (火)

小物から服まで、1本で手軽に編めるかぎ針編み。難しそうに見えますが、かぎ針編みの基本の編み方さえマスターすれば、初心者でも簡単に作れるものもあります。今回は、丈夫でいて、おしゃれに見える夏らしいジュート（黄麻）のひもを使ったボーダー柄の小さなポーチの作り方を、手芸の専門家たちに聞きました。ジュートは色数も豊富で、夏の編み物素材の一番人気です。



色彩美の技術と魅力

朝刊文化面 18日 (土)



シェークスピア原作、ローレンス・オリビエ監督・主演の英国映画「ヘンリィ五世」(1945年)は、重厚で鮮やかな色彩で戦後日本の観客を圧倒しました。長部日出雄さん=写真=のエッセー「映画と私の昭和」は、高度な技術と多額の製作費を要したテクニカラーの特徴とともに、映画にとって重要なのは物語や演出、演技に加え、映像美の魅力でもあったことを描きます。

都市対抗野球大会

18日 (土) ~29日 (水) の12日間

第86回都市対抗野球大会(毎日新聞社、日本野球連盟主催)が18~29日、東京ドーム(東京都文京区)で開催されます。予選を勝ち抜いた31チームと昨年優勝の大垣市・西濃運輸が黒獅子旗を目指して熱戦を繰り広げます。大会を前に14日朝刊の月刊都市対抗で補強選手を特集。昨年の大会で若獅子章を獲得した横山弘樹投手(NTT東日本→東京都・東京ガス)らを紹介し、15日朝刊では横田哲投手(東京都・セガサミー)らプロ野球ドラフト候補を特集。17日朝刊では林稔幸選手(太田市・富士重工業)らベテラン長距離打者を紹介し、全チームの選手名鑑も掲載します。開会式は18日午後0時20分から。初戦は午後2時から大垣市・西濃運輸と福山市・倉敷市・JFE西日本が対戦します。真夏の球宴は毎日新聞でお楽しみください。



特集 改正臓器移植法5年

特集面 16日



15歳未満の小児からの脳死臓器提供や、本人が拒否していなければ家族の承諾で臓器提供を認める改正臓器移植法が全面施行され、17日で5年になります。国内での移植機会を増やす目的でしたが、死後に臓器提供する人は改正後も増えていません。15歳未満の提供も7例です。移植・提供の当事者、医師への取材や、関連データを分かりやすくまとめて紹介します。